

ウッディチキン / 京都総会

『例会レポート 30』

日 程	:	2008年2月6日(水)
会 場	:	京都タワーホテル 9階 〒600-8216 京都市下京区烏丸通七条下ル (075)361-3212
参加者数	:	講習会=175名
講演会内容	:	PM6:30~8:30 ・伊藤豊代表 ウッディチキン今後の活動展開 ・全国実行委員からの活動目標報告 ・読書行動感想弁論大会 / 最優秀作品発表 ・大谷貴子先生講演
親 睦 会	:	PM8:45~10:20 出席者数約175名



レポート作成



ウッディチキン総事務局
谷口 隆



<http://woodychicken.com> info@woodychicken.com



< 開会挨拶 >

関西ウッディチキン代表カルムヘアー川畑琢三氏挨拶

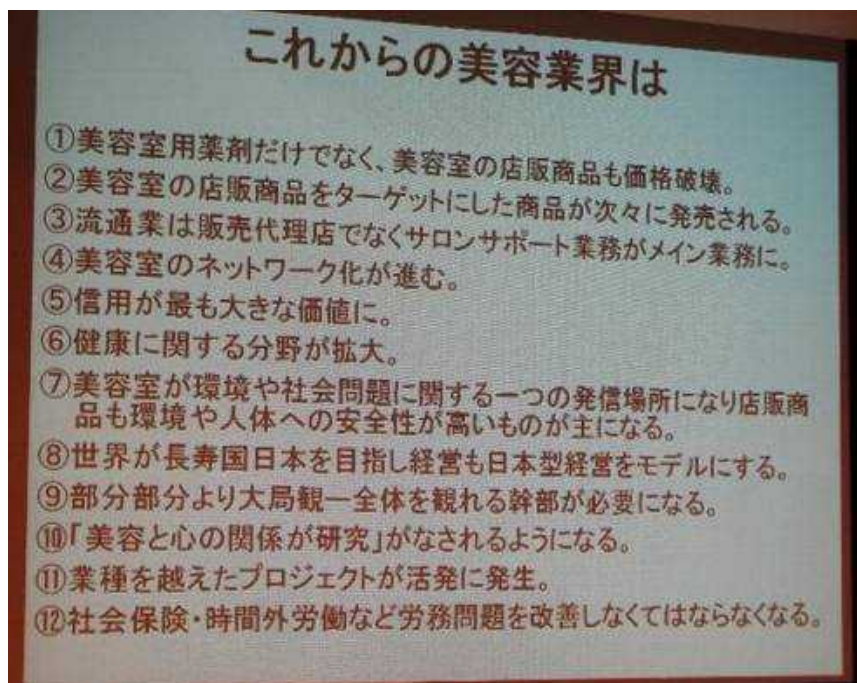
- ・今回は、まず伊藤代表のウッディチキンの今後の展開についてお話頂いた後、全国の各実行委員から方針説明をしてもらいます。
- ・続いては、先日関西ウッディの寺子屋（課題図書は石川洋先生の「13歳からの人間学」）で最優秀賞を獲得したフリゼーア小牧の徳田君よりその作品の発表をして頂きます。
- ・最後に、大谷貴子先生より、ご自分の体験談を元に骨髄バンク設立にかかわるお話をして頂きます。
- ・ではよろしくお祈りします。



< 伊藤代表より今後の展開説明 >

1. NPO法人化進行中

- ・4月よりウッディチキンをNPO法人としてスタートさせるべく、只今検討中です。
- ・これからの美容業界について考えてみました。



- ・北川八郎先生のところで断食中に出た話ですが、今までなら50～60人集まってきた子供達が、今は10くらいしか集まらないということでした。
- ・少子高齢化の時代になってきています。
- ・サロンの拡大路線はここ数年難しくなってきました。
- ・長く商売出来る様な形が求められるようになってきました。
- ・上質で、長く続けていける、裏切られない関係を構築していけないといけません。
- ・労務問題にも取り組んでいて、今資料をまとめています。
- ・ウッディ関西では、人材募集のギャザリング、寺子屋、店販ボランティアなどの企画を推進していきます。

- ・この4月より、「環境改善」「ボランティア」「読書普及」の3つの委員会を立ち上げて推進していきます。
- ・裏切られない絆の強い会でありたいと思っています。
- ・価値観（バリュー）とは、その人の一番大切にしているものであり、それが行動として出ます。
- ・仲間を大切に、絆を大切に集団していきたいと思っています。

< 3つの委員会より方針説明 >

1. 全国実行委員長より

- ・全国実行委員長を任されましたフリゼーア小牧の小牧雅彦です。
- ・3つの委員会を立ち上げて、実践していきます。
- ・1年目は、本日配布させて頂いているアンケートを各地で取らせて頂き、その結果を定例会で発信して行うと思っています。
- ・2年目は、アンケートの中から実行できることを選んで実践していきます。
- ・では、各委員長を紹介します。



2. 環境改善委員長

- ・環境改善委員長を任されました静岡のアンドエーの山内淳です。
- ・環境改善に取り組んでいるサロンの実例を取り上げて行きたいと思っています。
- ・どういう様に取り組めば会員サロン様が成功していただけるのかを研究して発信していきますので、ご協力よろしくお願いします。



3. ボランティア委員長

- ・ボランティア委員長を任されました京都のクンクンルーホーの宮前直子です。
- ・当店では、賛同して下さる近隣の店とタイアップして、相互にお客様にサービスを提供するという取り組みもしています。
- ・各サロンでのボランティアの取り組みを取り上げてまとめて行きたいと思っていますので、ご協力よろしくお願いします。



4. 読書普及委員長

- ・読書普及委員長を任されました東京のヘアシュプールの尾池兼吾です。
- ・1年目は読書をするという風土作りをしていきます。
- ・2年目は寺子屋大会でその行動した内容を共有していきたいと思っています。
- ・自店の近くに読書普及協会理事長で読書のすすめという本屋さんをされている清水克衛さんがおられるので、そこでのコラボレーションをしていきます。
- ・そこへの本の発注は、「ウッディチキンの会員です」と名乗って頂ければ送料が無料になるのでどんどん活用して下さい。http://dokusume.com



関西ウッディチキン

< 読書行動感想弁論大会 / 最優秀作品発表 >

1. 川畑氏より紹介

- ・昨年末、関西ウッディチキンで石川洋先生の「13歳からの人間学」を課題図書にして寺子屋を開催しました。その中から最優秀作品賞に選ばれたフリゼーア小牧の徳田君より、その作品の発表をして頂きます。

2. 発表

- ・発表者・・・徳田和彦君、フリゼーア小牧「ピフィーノ店」(兵庫県西宮市)
- ・大腸がんのおばあちゃんとの思い出。
- ・「皆さん！ 両親に、周りの人に、恋人に、感謝していますか？」



< 大谷貴子先生講演 >

大谷貴子先生プロフィール

1961年大阪生まれ。
 1986年千葉大学大学院在学中、慢性骨髄性白血病で余命数カ月と宣告されるが、白血球の型が母と適合し、骨髄移植に成功。
 助かる可能性はわずか1%という状態から奇跡的に生還。
 日本初となる骨髄バンクを設立。
 現在は全国骨髄バンク推進連絡協議会会長として、骨髄バンクの普及と“いのちの重み”を伝える活動に奔走中。
 著書<白血病からの生還 「霧の中の生命」増補版 (かに心書)>



はじめに

- ・大谷貴子です。
- ・私は、大阪育ちで、現在は埼玉に住んでいます。
- ・今日は、MAYUMIさんに髪をしてもらって、彼女と一緒に来ました。
- ・京都は、小さい時父にピアノのレッスンに連れて来てもらった思い出の地です。
- ・14歳の時に両親が離婚しました。

父の思い出

- ・自分は本を書いた。父のことを良いように書いていなかったの、それを読んでもらう勇気がなかった。だけど病室に置いておいたら読んでいた。
- ・父とは、最後の1年は一緒に暮らせた。
- ・父は小さな病院をやっていた。
- ・2月3日は雪だった。父が亡くなって、父の角膜を全盲の方に提供して、目が見えるようになった。



ボランティアの語源

- ・私は今は骨髄バンクのボランティアをしている。
- ・自分が白血病だったので、自分自身は登録出来ない。
- ・父の角膜提供のことがあったので、骨髄を提供するワクワク感を感じた。
- ・それまでは臓器を提供するなど、偽善者、ええかっこしいだと思っていた。
- ・ボランティアの語源はボルケーノから来ている。
- ・フツフツと湧き上がる心の動きを素直に行動に移す、志願するということである。



白血病発症

- ・自分が白血病になった時、姉がアメリカから身重で帰って来てくれた。
- ・余命3～5年の命と言われた。
- ・母はそれを私に言わないと言った。
- ・姉は、「病気と戦わないといけぬ！」という信念で私に告げた。
- ・生きられるかもしれないなら、生きるチャンスに掛けるために、良い医者を探そうということになった。
- ・そして、京大病院で最初の闘病生活が始まった。
- ・しかし、そこの先生が「この病院では移植は出来ないが、それが必要な時には紹介できる」と言われた。
- ・いくら探しても、マッチする提供者がいない。凄く無力さを感じた。
- ・「I can do it!」(私は出来る)と父から言われたのを思い出して、涙を拭いて立ち上がり探した。
- ・私のマッチするは1万人に1人の型だった。
- ・両親とは合わないと言われているのが一般論だった。
- ・しかし、両親のルーツが近いということで合うかもしれないと言われた。
- ・調べてみると母と同型だった。父親も調べた。
- ・成功率は1%だった。
- ・姉は引かなかった。
- ・一番若い医者が、その可能性に掛けてお手伝いさせて欲しいと言いつ張った。
- ・それが成功へのきっかけだった。



骨髄バンク活動

- ・それから、名古屋を中心に骨髄バンク活動を始めた。
- ・それが、中日新聞に掲載された。
- ・そしたら、翌日早朝から多くの電話が鳴った。
- ・大阪の患者さんが岐阜の提供者のお陰で命が助かった
- ・これがプロジェクトXで取り上げられたバンク1号だった。
- ・1991年11月に全国の骨髄バンクが国の機関として立ち上がった。
- ・これで自分の活動は楽になると思ったが、運動はまだまだ続けないと駄目だった。
- ・当初10万人の登録者がいれば良いと言われたが、30万人でないと足りないことが分かったが、その人数の登録者を確保できることが出来た。
- ・登録者の年齢制限は、18～54歳までである。
- ・30万人の登録者で93.6%まで見つけることが出来る。しかし提供者の実効割合は、各種の理由（家族の反対、職場を休めない<3～4日>、体調不良、妊娠中、事故にあったなど）で、もっと低く55%程度に減ってしまう。
- ・スタンバイOKの人が30万人いるわけではない。



ドラマ化

- ・3月19日(水)または26日(水)PM9:00～TVドラマとして放映される。
- ・骨髄バンクの電話番号を出してもらうことで許可を出した。
- ・ドラマは、美容師になるのが夢だったさおりちゃんを主人公にして、よみがえらせた。
- ・タイトルは「30万人からの奇跡」で、主役(大谷貴子役)は内山里名さん、母親役は竹下恵子さん。

クリック募金

- ・支援して頂けることとしては骨髄バンクに登録することだけではない。
- ・価格.comの次のサイトにアクセスして、ワンクリックすることで、1日1回1円が企業スポンサーから財団に寄付される仕組みとなっている。

<http://kakaku.com/donation/>

- ・ぜひ、上記をお気に入り登録して毎日クリックして頂けるとありがたい。

費用分担など

- ・国の予算が少なくなっている。
- ・移植の必要予算が100としたら、50は寄付、30は患者負担、20が国の予算の構成になっている。
- ・移植は、健康診断と同じ考え方なので、保険が使えない。
- ・コーディネイター費用などに多額が掛かる。
- ・ウッディチキンのTさんの息子さんが骨髄バンクを利用して治ったというご縁で、今日はここに来させて頂いた。
- ・TV番組「金スマ」からの出演依頼が来た。
- ・一番大切にしているのが「Face to face」(顔を突き合わせて)のコミュニケーションである。
- ・アイバンクのときにも勉強したが、「知識は最良の薬なり」です。



ありがとうございました。



～～ 懇親会の写真は、別途写真集をご覧ください。 ～～

次回は 3月12日(水) 高知(初回)です。

今年も、もっともっと、ソウルメイトの絆を深めていきましょう！